

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05666	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	熱帯泥炭林のオイルパーム農園への転換による生態系機能の変化と大気環境への影響	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	平野 高司 (北海道大学・農学研究院・教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、泥炭の好気性分解が進む熱帯泥炭林のオイルパーム農園などに設立されたタワー観察サイトをネットワーク化し、そこで確立されたデータベースの総合解析などからオイルパーム農園の拡大が温室効果気体（GHG）収支及び地域規模の気候システムに与える影響を定量化・モデル化するものである。</p>	
<p>(意見等)</p> <p>オイルパーム農園への転換・拡大が、地域環境と地球環境に及ぼす影響を正しく見積もり適切な対策を見いだすために、次の四つのサブテーマにより研究を進めている（ST1:観測ネットワークを利用した統合解析と地上観測、ST2:衛星リモートセンシングによる土地被覆、地盤沈下、バイオマスの空間分布推定、ST3:陸域生態系モデルによる物質循環とエネルギー収支の時空間変動評価、ST4:地域気候モデルを用いた土地利用変化の影響評価）。</p> <p>これまでの研究から、繰り返される火災によって森林跡地がCO<sub>2</sub>の放出源（ソース）から吸収源（シンク）になり得ることを示す発見などの研究成果を得て英論文6編を公表しており、一定の研究成果として評価できる。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査が進んでおらず、研究の一部に遅れ等が認められるため、今後の研究遂行において可能な限りの対策を取るなど、努力が必要である。</p>	